

せいけん
詩集

第三百十篇

作：近藤せいけん

「窓の向こうは海」

古い窓ガラスの向こうに
穏やかな海が見えます
夕暮れが近い 波静かな
伊豆の海です

ポンポン船が 帰って来ます
何が釣れたのだろうか
いつまでも 見ていたい
風景です

窓の向こうは 伊豆の海です

千年の時空も 変わらない
天然の海 私心の旅路
人生の一場面 一場面を
切り取り 旅をしています

視線だけが ただ ぼんやりと
古い窓ガラスの 向こうの海に
寄せる波音だけが 聞こえます
夕暮れが 静かに迫っています

